

<13期第11回講義「声楽の魅力 ③ソプラノ ミュージシャン」>

- ・日時 2025年11月7日(金) 午前10時～12時
- ・場所 池田市・ナムの広場
- ・講師 播摩 夏奈先生(ソプラノ歌手)
竹中 敦子先生(ピアニスト)



播摩 夏奈 先生

第1部「音で旅する世界」

ピアノの演奏が始まると同時に、播摩先生が旗を持って「小さな世界」を歌いながら登場された。

そのあとも解説付きで次々と世界各国の歌を歌われた(曲目は、以下のとおり)。

(1)「小さな世界」…1964年のニューヨーク万博のためにロバート&リチャード・シャーマン(兄弟)が作曲。

(2)「草原情歌」…1938年に中国の王洛賓が作曲(新疆ウイグル自治区カザフ民族)。ド・レ・ミ・ソ・ラの5音階からなる。日本でも歌われているが、メロディは原曲とは少し異なる(おそらく、日本人の耳になじみやすいように)。

(3)「モリエンド・カフェ(Moliendo Café: コーヒーを挽きながら)」…南米で最大の原油産出国ベネズエラの曲。1958年にホセ・マンソ・ペローニが作曲。歌詞が少し違うが、日本では「コーヒー・ルンバ」として知られている。

(ここでピアノソロでの演奏となった。)

(4)「オブリビオン」…アルゼンチンのアストル・ピアソラが1984年に作曲した曲。ピアソラはバンドネオン奏者でもあったが、フランスでクラシック音楽を学び、作曲においてクラシックとタンゴの融合をさせた。

オブリビオンはイタリア映画の主題曲で、日本では「忘却」という名で知られている。

(5)「マイム・マイム」…イスラエルのエマヌエル・アミランが1942年に作曲したフォークダンス曲。「マイム」は「水」で、開拓期のユダヤ人が井戸を掘り当て「水が湧き出してうれしい」を歌った曲。

(「この講義の最後に、みなさんでフォークダンスをやりますから…」と、しばしの歌の練習があった。)

(6)「白銀の月よ」…チェコの作曲家ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」の人魚姫のアリアとして1900年に作曲。チェコはガラス製品が有名で、またビールの消費量が世界一の国でもある。



旗を振りながら登場された播摩先生



熱演中の播摩先生(右)と竹中先生(左)

(7)「虹の彼方に」…米国の作曲家ハロルド・アーレンが1939年のミュージカル映画「オズの魔法使い」のために作曲。

(8)「ドレミの歌」…1965年公開の映画「サウンド・オブ・ミュージック」の中で歌われた曲。リチャード・ロジャース作曲。

(9)「愛の讃歌」…作詞はエディット・ピアフ、作曲はマルグリット・モノーによる曲。シャンソンを代表する曲。きょうは日本でよく知られている岩谷時子の歌詞で歌う。原詞の

意味は、「空が落ちてこようと/天地が崩れ去ろうとかまわない/あなたが愛してくれるなら/世界がどうなろうと」。

第2部「愛と人生の音楽劇」

「ある女の愛と半生」を想定したストーリーで、ポピュラー曲をつないだ「音楽物語」。

冒頭のセリフ…「私はある橋の下で拾われ、孤児院でそだったと聞いています」から始まった。

(1)『トゥモロー』…朝が来れば、私はキットいいことがあり、そしてトゥモローも…と前を見て生きてきた。

(2)『ニュー・シネマ・パラダイス』…映画を観て、映画の世界だけを信じて夢見る生活をしていた。

(3)『いつか王子様が』…いつか王子様が迎えに来るものと…

(4)『君といつまでも』…私の王子さまは、いったいどこにいらっしゃるのか知らと…、ここで生徒の一人が(先生に促されて)舞台上上がって、歌の途中のレスタティーボの「幸せだな～」のセリフを読み上げ。先生から「やはり性格が合わないかな」…と。

(5)『ひとりぼっち』…私はひとりで街を歩いた。でも話し相手は自分だけだよ…と。

(6)『酒と泪と男と女』…私は酒浸りとなり、♪飲んで飲まれて♪ 酒場で男を手玉にする悪い女になった。

(7)『新カルメン(ハバネラをアレンジした曲)』…「恋は気ままモノ」とばかりの生活にはまっていた。ところがある時、「このままやったらアカン」と気付いた。

(8)『愛は花、君はその種』…本当の愛に気付いた私は踊りだしたくなった。

(9)『踊り明かそう(マイフェアレディ)』…そして、まともな生活を送れるようになり、踊り明かした。



音楽劇の一場面(君といつまでも)

第3部 みんなで歌唱(クラス全員で、ユニゾンでの歌唱指導)(1)いつでも夢を／(2)昴(すばる)

第4部 歌唱(次の2曲の演奏)

(1)落葉松…野上彰作詞、林秀雄作曲、

(2)日本の四季…四季を歌った抒情歌(文部省唱歌)を、次のとおりメドレーとして歌われた。

①故郷(うさぎ追いし～)→②春の小川→③朧月夜→④鯉のぼり→⑤茶摘み→⑥夏は来ぬ→

⑦我は海の子→⑧村祭り→⑨紅葉→⑩冬景色→⑪雪→⑫故郷(如何にいます～、志を果たして～)

講義の感想

2時間があっという間にすぎました。朝の早い時間からの歌唱は、ソプラノ歌手である播摩先生におかれては適応に苦労されたはず。プログラムが進むにつれて、発声が整ってこられる様子が感じられ、素晴らしい演奏を楽しませていただきました。また来年度もご講義と演奏をお聴かせいただける由ですので、楽しみにいたしております。[広報担当 S.S.]